

令和元年度評価点「2」の改善について

- 令和元年度の評定で「2」を受けた以下の6項目については、令和2年度の事業活動において優先事項と位置づけその改善に取り組み、法人としての令和2年度の自己評価においては「3」とすることができた。

項目	項目内容	評価理由
6	博物館等の運営に関する調査研究及び評価等	コロナ禍であったため、従来の紙面でのアンケート調査に加え、ウェブ上でのアンケート作成を行い、積極的に入館状況等の分析に努めた。
16	各館の枠を超えた知識及び経験等の共有並びに展示及び広報等における戦略的連携	各館とも機構内の博物館の資料の貸し借りや、事業の共同実施、共同で研修を行うなど、連携を図り、それぞれの強みを生かしながら、より良い事業を実施することができた。
19	各館の建物及びその附帯設備等を有効活用した幅広い事業の実施	コロナ禍における当該事業の展開が困難で、利用者も無い中で、大阪クラシックへの施設提供が実施できた。
56	インセンティブが適正に働く人事制度の導入	- 他の機関における人事評価制度を活用したインセンティブの在り方について、先行する独立行政法人の制度やインセンティブの配分方法について検証を行った。 - 学芸連絡会議等で学芸員の人事評価制度を議論する中で、その結果の反映方法についても意見を交換し、試行版ながら制度の構築ができた。
57	財務、会計、勤怠、人事及び給与業務等におけるシステムの導入及び活用	- 財務会計システム導入のプロジェクトチームを立ち上げて導入推進を図った。4月より準備期間を経て10月から本格稼働に移行し、コロナ禍における臨機の経営判断（決算見込み）に活用できた。 - 人事・給与システムについては、12月から従来のアナログ方式との並行稼働を経て、令和3年3月から本格稼働し、ペーパーレス化や集計作業における業務の効率化を実現した。 これらに加え、次のICT技術の導入による業務の効率化と経費縮減を図った。 - 全館へのグループウェア導入を通じて、迅速な情報共有を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。

		・コロナ禍においてオンライン会議ソフトを導入することで、移動のための経費や時間の削減を図るとともに、ペーパーレス化を推進した。
72	ネットワークセキュリティの強化	・情報セキュリティについて規程整備等を進めた。 ・会議において諸規程の浸透を図ることにより、リスク回避に努めた。 ・在宅勤務を可能とするための端末（モバイルパソコン）を導入するとともに、運用に向けて必要なセキュリティ対策を実施した。 ・大阪市のIT部局担当者を講師に、博物館機構ICT関連オンライン研修（情報化会議）を開催し、先端動向を学習した。